

地本申し入れシリーズ 7

最近、多くの線区で山間部走行中に動物、特に「鹿」と衝突する事故が多く発生し、列車の運行に影響が出ています。

以前、飯田線では「鹿」との衝突によりブレーキ管が破損し、乗客を乗せたまま5時間も止まったと云う事象が発生しています。

列車の高速化、環境の変化等により野生動物にとっても運転士にとっても、とんだとばかりを受けているのです。

野生動物が線路に進入しない対策！ 衝突した場合でも機器類が破損しない対策！

山間部の線区において動物と衝突する事故が増えている。ネットを張り巡らす等の対策強化すると共に動物が衝突した場合、ブレーキ管、元ダメ管等が破損しないように補強すること。また119系車両下部に機器破損防止ガードを付けること。

JR東海労名古屋地本申第1号より

野生動物と衝突した場合の危険性と問題点

1. 運転士は車両の状況を確認する必要がありますが、夜間の場合、足下が暗く良く分からない状態の中で車両から線路に降りることが危険。
2. 動物が車両の下などにある場合、取り除く事が求められますが、動物が手負い状態だと攻撃される危険。
3. 死亡した動物を取り除くにしても、野生動物にはダニが付着している。触れることによってダニが自分に付く危険。
4. 衝突する場所の多くは駅間の山間部であり、ブレーキ管等の故障があっても、暗い中で簡単に応急処置が出来ない場合がある。

業務委員会では

組合：ブレーキ管が剥きだしになっているので壊れる。

会社：対策として訓練で応急処置を行っている。

組合：ブレーキ管が破損しないように補強ガードを付けこと、専門家に相談して鹿対策を行うことである。

この様に私たちの思い、要求を無視する会社に対して

JR東海労は小さな事柄も会社に要求し解決を求めます。
他労組の皆さん！ ご意見、ご要望をお待ちしています。